

食品中に含まれる放射性物質に関する リスクコミュニケーションについて



平成31年3月
内閣府食品安全委員会事務局

1. 具体的な取り組み状況

○地方公共団体との共催により学校教育関係者(栄養教諭等)を対象にした意見交換会を開催

- ・食品のリスクは「ハザードの毒性×摂取量」であること、放射性物質等、基準値を下回り、量が少ない場合は心配する必要がないことを説明
栃木県、松山市、名古屋市、大阪府、那覇市、京都府、岡山県(合計374人)



○一般消費者を対象とした「みんなのための食品安全勉強会」

- ・当日のメインテーマ(食中毒)の前に、食品のリスクの考え方について説明
東京、大阪、横浜(合計71人)

●関係府省と連携した親子参加型イベント・セミナー等の開催

- ・平成30年度は全国3会場(東京、大阪、仙台)親子参加型イベントに出展
「知ろう! 考えよう! 親子で学ぶ、食品中の放射性物質」
その中で小学生とその保護者に対し、食品中の放射性物質に関するセミナー等を実施
(平成29年度、ブース等来場者:約2,000人、セミナー参加者:約300人)
(平成30年度、ブース等来場者:約2,500人、セミナー参加者:約650人)



●関係府省と連携して平成30年度に実施した意見交換会

- 「食品中の放射性物質を巡る震災からの歩みーこれまでを知り、明日の消費行動を考えるー」
・11月12日 東京(103人) ・11月15日 静岡(33人) ・11月22日 大阪(44人) 11月28日 沖縄(40人)

2. 今後の取組について

- 引き続き1. の取組を継続するとともに、食中毒、食品添加物等をテーマに、自治体や関係団体が要請する随時の講師派遣の際にも食品の安全の確保の基本的な考え方(放射性物質等、基準値を下回る場合は心配する必要がないこと)を必ず説明

- Facebook等、ネット媒体を利用して、放射性物質に関する正しい知識を発信